

ミサがわかるセミナー (2021.09.19)

「ともに歌い賛美する」 テレジア聖歌隊 狩野榮彦

1. ごあいさつ

- ・モーセとイスラエルの民は主を賛美してこの歌をうたった。(出エジプト記15章)
- ・エズラが大いなる神、主をたたえ、民は皆、両手を挙げて「アーメン、アーメン」と唱和し、ひざまずき、顔を地に伏せて、主を礼拝した。(ネヘミヤ記8章6)

2. 私たちが歌う理由とは

①ラテン語から日本語へ (第二バチカン公会議と、それ以前の典礼運動)

エルサレム会議 (48年、使徒言行録15章)

↓

トリエント公会議 (1545～63年)

↓ ・ローマ・ミサ典礼書 (1579年)

第二バチカン公会議 (1962～65年)

②典礼憲章より (行動的参加とは)

典礼憲章 (1963年12月4日公布) より抜粋

26 (典礼の共同体性) 典礼行為は、個人的行為ではなく、教会の祭儀である。教会は「一致

の秘跡」、すなわち、司教のもとに一つに統合された聖なる民である。・・・

28 (各自の役割を果たす) 典礼の祭儀においては、教役者も信者も、各自が自分の役割を果

たし、そのことがらの性質と典礼上の規定によって、自分に属することだけを、そしてそ

のすべてを行なうべきである。

③「典礼聖歌」合本の序文から

典礼聖歌合本 序文（1979年12月24日 典礼委員長 長江 恵司教）より抜粋

- ・ 典礼聖歌の唱和は祭儀を美しく感動的なものにするための飾りではなく、典礼行為そのものです・・・
- ・ ・ ・ ・ 国語採用と詩編重視は実はグレゴリオ聖歌の精神と伝統にもとづくことを見のがしてはならないでしょう。
- ・ なお本書の発行は仕事の完成ではなくて、大きな未来への第一歩であることを確認しておきたいと思います。

3. 現行ミサの式次第（対話句）

①歌うための心と体の準備

- ・ あなたは心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。

（申命記6章5）

- ・ 心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。（マルコ12章30）

②リズムの特徴（グレゴリオ聖歌から受け継いだもの）

- ・ 最小リズムは「2拍細胞」と「3拍細胞」に分けられる

③音使いの特徴（底流にある日本の伝統音楽）

④歌ミサの実際（実践）